

川越市上下水道事業経営戦略

令和 5 年度 取組状況報告書

水 道 事 業

公共下水道事業

— 目次 —

はじめに	1
1. 決算状況・経営の取組状況（水道事業）	2
2. 決算状況・経営の取組状況（下水道事業）	6
3. 経営比較分析表を活用した現状分析（水道事業）	10
4. 経営比較分析表を活用した現状分析（下水道事業）	17

令和 6 年 1 1 月
川越市上下水道局

はじめに

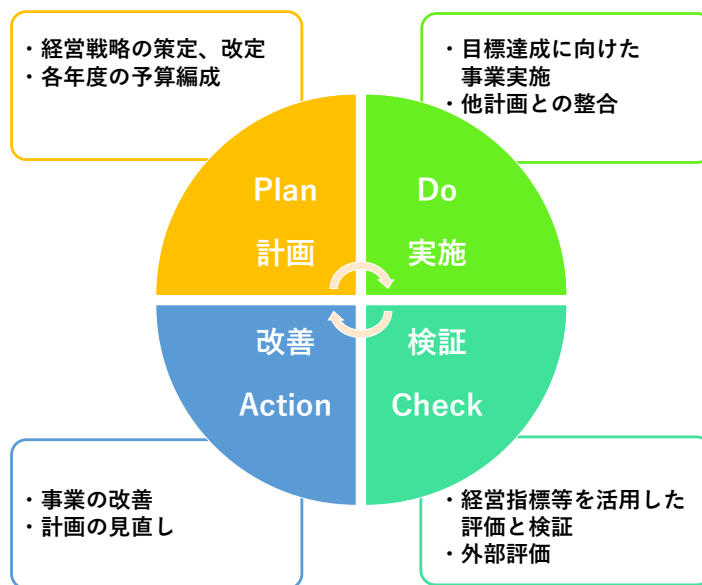
本市では、水道事業及び公共下水道事業が将来にわたってサービスの提供を安定的に継続できるよう、中長期的な経営の基本計画である「川越市上下水道事業経営戦略」を策定しました（令和2年3月）。

また、総務省は平成31年3月に発出した『「経営戦略」の策定・改定の更なる推進について』において、経営戦略の策定後は、進捗管理や計画と実績との乖離検証を行い、「経営戦略策定・改定ガイドライン」や「経営戦略策定・改定マニュアル」を用いて、定期的な見直しを行うことなどを各地方公共団体に要請しています（PDCAサイクルの確立）。

このたび、令和5年度決算に基づき経営戦略に掲げた事業計画について、その取組状況を検証するとともに経営状況の評価を行いました。

計画期間＝令和2年度～令和11年度

検証・評価＝令和5年度



川越市上下水道事業経営戦略におけるPDCAサイクル

1. 決算状況・経営の取組状況

水道事業

(1) 令和5年度決算

令和5年度の収益的収支では、約4億2,300万円の当年度純利益が生じていまして、前年度に比べて約5,000万円の増加となりました。また、計画値との比較では、令和4年度に計画していた10%の料金改定を見送ったことなどを受け、営業収益が約7億6,600万円下回っており、当年度純利益としては、約5億円下回る状況となりました。資本的収支では、資本的収入が約1億6,000万円増加し、資本的支出が約5,500万円減少した結果、資本的収支不足額は前年度に比べて約2億1,600万円減少し、計画値との比較では、約1億円上回る状況となりました。

(2) 経営の取組状況

経営戦略を着実に推進するために、計画に掲げた投資及び財源の目標に沿った取組の評価を毎年度実施します。

評価結果を事業や今後の計画に反映させることにより、継続的に改善を行います。

① 評価の方法

経営戦略に掲げた投資及び財源に関する方向性で示した数値目標に関する達成度合いについて評価（内部評価*）を行います。

② 評価基準

目標を設定した指標について、以下の基準に基づき評価を行い、C評価となった項目については、改善の取組に関する検討を行います。

A	順調	問題なく進んでいる
B	おおむね順調	計画期間終了までに目標を達成できる見込みがある
C	遅れている	進展が遅く、改善の取組を進める必要がある

③ 評価の総括（各指標についてはP3【令和5年度取組状況に関する評価（水道事業）】に記載）

有収率については、目標値である95%を上回りました。一方で、給水に要する費用を料金収入で賄っていない状況にあるため、施設の更新需要や水道の使用実態、事業を取り巻く環境などを踏まえたうえで、投資・財政計画を適切に更新することが必要です。

* 上下水道局内にて評価を行い、外部評価については経営戦略の見直しの際に実施することを想定しています。

◆令和5年度取組状況に関する評価（水道事業）

1. 投資に関する方向性

（当初値／実績値／目標値）		当初 (H29)	R元実績	R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6	R7	R8	R9	R10
有収率 （年間有収水量／ 年間配水量）	数値	94.56 %	93.25 %	94.02 %	94.71 %	94.25 %	95.03 %					95.0 %
	評価			B	B	B	A					
管路の更新率 （更新管路延長／ 管路総延長）	数値	0.98 %	0.94 %	0.96 %	1.40 %	1.29 %	1.04 %					1.25 %
	評価			B	A	A	B					
重要施設配水管耐震化率 （耐震化済延長／ 全重要施設配水管延長）	数値	15.8 %	18.0 %	20.3 %	21.4 %	23.1 %	23.8 %					30.0 %
	評価			B	B	B	B					
配水管の耐震化率	数値	20.1 %	22.1 %	23.2 %	24.5 %	26.1 %	27.4 %					32.6 %
	評価			B	B	B	B					

2. 財源に関する方向性

（当初値／実績値／目標値）		当初 (H29)	R元実績	R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6	R7	R8	R9	R10
企業債残高対給水収益比率 （200%以内）	数値	134.92 %	134.71%	139.28 %	136.17 %	139.62 %	135.71 %					200%以内
	評価			A	A	A	A					
適正な内部留保資金水準 （25 億円以上）	数値	約 25.1 億円	約 39.7 億円	約 38.6 億円	約 38.8 億円	約 36.7 億円	約 33.4 億円					25億円以上
	評価			A	A	A	A					
料金回収率100%以上 （供給単価／給水原価）	数値	103.53 %	95.53 %	96.25 %	97.45 %	93.60 %	94.55 %					100%以上
	評価			B	B	C	C					
累積欠損金未発生	数値	未発生	未発生	未発生	未発生	未発生	未発生					未発生
	評価			A	A	A	A					

* 計画策定時における指標値として当初値（平成 29 年度末）、計画初年度の前年度対比として令和元年度末の値を併記しています。

◆ 令和5年度収支状況

水道事業収益の収支

科目	令和4年度決算額	令和5年度決算額
水道事業収益	6,224,065,749	6,313,220,731
営業収益	5,662,860,925	5,890,294,026
営業外収益	559,854,148	422,785,029
特別利益	1,350,676	141,676
水道事業費用	5,851,132,867	5,889,688,359
営業費用	5,740,157,371	5,784,360,982
営業外費用	110,370,531	100,461,253
特別損失	604,965	4,866,124
当年度純利益	372,932,882	423,532,372

水道事業資本の収支

科目	令和4年度決算額	令和5年度決算額
資本の収入	860,985,630	1,021,147,119
企業債	600,000,000	600,000,000
他会計負担金	43,181,000	43,145,000
工事負担金	140,034,630	267,005,219
水道施設加入金	77,524,700	106,407,400
国庫補助金	0	4,221,000
固定資産売却代金	245,300	368,500
他会計補助金	0	0
資本の支出	3,521,986,740	3,466,024,127
建設改良費	2,814,379,999	2,792,324,317
企業債償還金	707,606,741	673,699,810
予備費	0	0
資本の収支	△ 2,661,001,110	△ 2,444,877,008

令和5年度取組状況報告書

(単位：円)

前年度比較（増減）	計画値（投資・財政計画）	決算額と計画値との差
89,154,982	7,033,743,000	△ 720,522,269
227,433,101	6,657,070,000	△ 766,775,974
△ 137,069,119	376,663,000	46,122,029
△ 1,209,000	10,000	131,676
38,555,492	6,105,751,000	△ 216,062,641
44,203,611	5,958,270,000	△ 173,909,018
△ 9,909,278	142,707,000	△ 42,245,747
4,261,159	4,774,000	92,124
50,599,490	927,992,000	△ 504,459,628

(単位：円)

前年度比較（増減）	計画値（投資・財政計画）	決算額と計画値との差
160,161,489	913,211,000	107,936,119
0	700,000,000	△ 100,000,000
△ 36,000	53,184,000	△ 10,039,000
126,970,589	52,436,000	214,569,219
28,882,700	107,591,000	△ 1,183,600
4,221,000	0	4,221,000
123,200	0	368,500
0	0	0
△ 55,962,613	3,254,581,000	211,443,127
△ 22,055,682	2,580,295,000	212,029,317
△ 33,906,931	669,286,000	4,413,810
0	5,000,000	△ 5,000,000
216,124,102	△ 2,341,370,000	△ 103,507,008

2. 決算状況・経営の取組状況

下水道事業

(1) 令和5年度決算

令和5年度の収益的収支では、約2億2,400万円の当年度純利益が生じ、前年度に比べて約6,400万円増加しました。また、計画値との比較では約1億5,800万円上回る状況となりました。

資本的収支では、補助金の増加等により資本的収入が約3,600万円増加した一方、企業債償還金の減少により資本的支出が約8,900万円減少した結果、資本的収支不足額は前年度に比べて約1億2,600万円減少し、計画値との比較では約2億8,700万円上回る状況となりました。

(2) 経営の取組状況

経営戦略を着実に推進するために計画に掲げた投資及び財源の目標に沿った取組の評価を毎年度実施します。

評価結果を事業や今後の計画に反映させることにより、継続的に改善を行います。

① 評価の方法

経営戦略に掲げた投資及び財源に関する方向性で示した数値目標に関する達成度合いについて評価（内部評価*）を行います。

② 評価基準

目標を設定した指標について、以下の基準に基づき評価を行い、C評価となった項目については、改善の取組に関する検討を行います。

A	順調	問題なく進んでいる
B	おおむね順調	計画期間終了までに目標を達成できる見込みがある
C	遅れている	進展が遅く、改善の取組を進める必要がある

③ 評価の総括（各指標についてはP7【令和5年度取組状況に関する評価（下水道事業）】に記載）

管きょ施設の耐震化は概ね順調に進んでいます。有収率についても上昇基調にあります。経費回収率は依然として低い水準にあります。今後も下水道施設の適切な維持管理に取り組むと共に、下水道接続に関する指導を継続するなど、財源確保に関する取組を更に強化することが必要です。

* 上下水道局内にて評価を行い、外部評価については経営戦略の見直しの際に実施することを想定しています。

◆令和5年度取組状況に関する評価（下水道事業）

1. 投資に関する方向性

（当初値／実績値／目標値）		当初（H29 末）	R元末実績	R2末実績	R3末実績	R4末実績	R5実績	R6	R7	R8	R9	R10
長寿命化管きょ延長	数値	31.7 km	32.3 km	33.8 km	34.2 km	34.6 km	34.8 km					36.7 km
	評価			B	B	B	B					
管きょ耐震化率 （耐震管渠延長／ 管渠総延長）	数値	14.5 %	15.5 %	17.0 %	18.4 %	18.6 %	19.2 %					22.8%
	評価			A	A	B	B					
有収率 （年間有収水量／ 年間汚水処理量）	数値	71.30 %	65.70 %	68.60 %	74.04 %	75.32 %	79.11 %					80.0%
	評価			C	C	B	B					

2. 財源に関する方向性

（当初値／実績値／目標値）		当初（H29 末）	R元末実績	R2末実績	R3末実績	R4末実績	R5実績	R6	R7	R8	R9	R10
企業債残高対事業規模比率 （200%以内）	数値	172.23 %	156.26 %	146.39 %	133.20 %	119.36 %	96.88 %					200%以内
	評価			A	A	A	A					
適正な内部留保資金水準 （30 億円以上）	数値	約34.8 億円	約45.7 億円	約48.4 億円	約48.1 億円	約49.5 億円	約52.7 億円					30億円以上
	評価			A	A	A	A					
経費回収率100%以上 （下水道使用料／汚水処理費）	数値	107.44 %	*86.93 %	87.92 %	92.59 %	91.54 %	93.25 %					100%以上
	評価			B	B	C	C					
累積欠損金未発生	数値	未発生	未発生	未発生	未発生	未発生	未発生					未発生
	評価			A	A	A	A					

* 令和元年度から、総務省が示した地方公営企業決算状況調査の基準に基づき、汚水処理費の算出方法を変更したことから数値が減少しました。

（変更前の算出方法による令和5年度の経費回収率は108.80%です）

* 計画策定時における指標値として当初値（平成29年度末）、計画初年度の前年度対比として令和元年度末の値を併記しています。

◆令和5年度収支状況

公共下水道事業収益の収支

科目	令和4年度決算額	令和5年度決算額
下水道事業収益	5,866,922,224	5,866,311,961
営業収益	4,173,532,038	4,184,453,213
営業外収益	1,675,111,664	1,662,425,329
特別利益	18,278,522	19,433,419
下水道事業費用	5,706,368,208	5,641,575,301
営業費用	5,372,710,739	5,330,150,096
営業外費用	315,029,095	290,389,520
特別損失	18,628,374	21,035,685
当年度純利益	160,554,016	224,736,660

公共下水道事業資本の収支

科目	令和4年度決算額	令和5年度決算額
資本的收入	771,622,770	808,615,889
企業債	471,400,000	269,900,000
国庫補助金	0	60,000,000
工事負担金	173,100	217,800
その他	68,246,150	63,739,300
他会計負担金	75,709,370	55,803,339
他会計補助金	156,021,000	358,263,000
固定資産売却代金	73,150	692,450
資本の支出	2,906,894,302	2,817,496,341
建設改良費	1,774,844,000	1,808,955,593
企業債償還金	1,132,050,302	1,008,540,748
予備費	0	0
資本の収支	△ 2,135,271,532	△ 2,008,880,452

令和5年度取組状況報告書

(単位：円)

前年度比較（増減）	計画値（投資・財政計画）	決算額と計画値との差
△ 610,263	6,161,077,000	△ 294,765,039
10,921,175	4,244,092,000	△ 59,638,787
△ 12,686,335	1,899,785,000	△ 237,359,671
1,154,897	17,200,000	2,233,419
△ 64,792,907	6,095,005,000	△ 453,429,699
△ 42,560,643	5,800,636,000	△ 470,485,904
△ 24,639,575	273,631,000	16,758,520
2,407,311	20,738,000	297,685
64,182,644	66,072,000	158,664,660

(単位：円)

前年度比較（増減）	計画値（投資・財政計画）	決算額と計画値との差
36,993,119	1,123,296,000	△ 314,680,111
△ 201,500,000	600,000,000	△ 330,100,000
60,000,000	137,950,000	△ 77,950,000
44,700	0	217,800
△ 4,506,850	39,300,000	24,439,300
△ 19,906,031	66,146,000	△ 10,342,661
202,242,000	279,900,000	78,363,000
619,300	0	692,450
△ 89,397,961	2,844,455,000	△ 26,958,659
34,111,593	1,828,398,000	△ 19,442,407
△ 123,509,554	1,011,057,000	△ 2,516,252
0	5,000,000	△ 5,000,000
126,391,080	△ 1,721,159,000	△ 287,721,452

３．経営比較分析表を活用した現状分析

水道事業

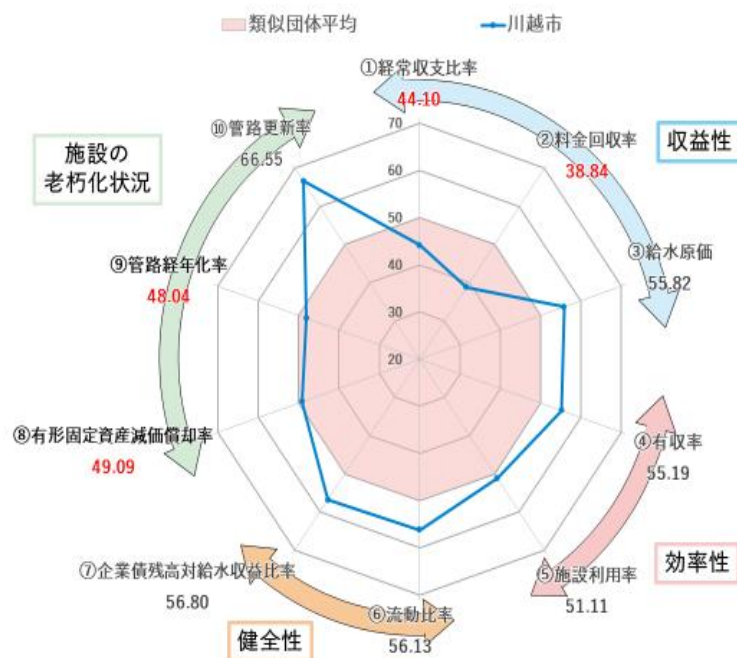
経営比較分析表とは、総務省が示した統一様式により、公営企業における経営や施設の状況を表す指標について、経年変化や類似団体平均との比較分析を行うことで、現状や課題等を把握することができる資料です。

本取組状況報告書では、経営比較分析表から令和４年度の各指標値を抽出し、類似団体の平均（ピンク色）を偏差値 50 とし、外側に向かうほど各指標が平均よりもよいことを表すレーダーチャートを下図のとおり作成しました。

また、次ページ以降に掲載している経営比較分析表では、令和４年度以前の５年間ににおける各指標値と類似団体平均値を比較し、本市の令和５年度の指標値を示しています（令和５年度の類似団体平均値については、令和６年１０月時点で総務省から公表されていません）。

なお、類似団体とは、給水形態及び現在給水人口規模により区分されたもので、川越市は「末端給水事業、現在給水人口 30 万人以上」の区分に属しています（令和４年度は全国に 49 団体あります）。

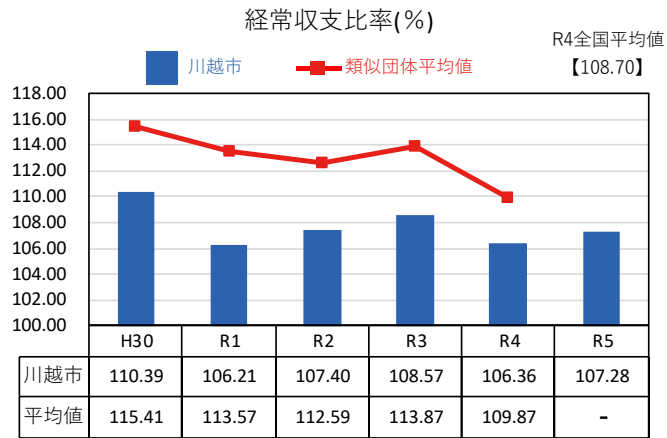
経営比較分析表レーダーチャート（令和４年度 水道事業）



令和5年度取組状況報告書

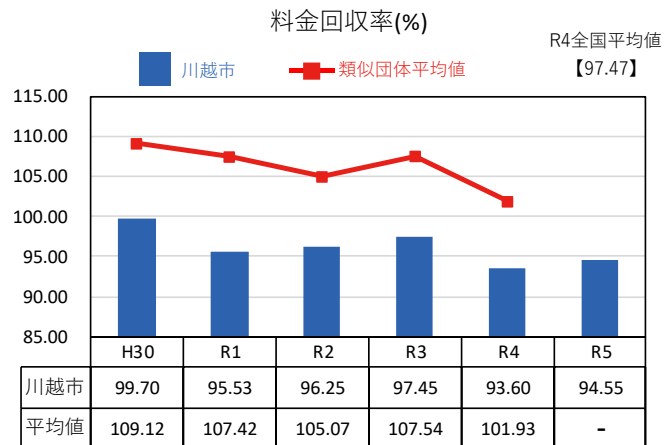
収益性 に関する指標

業務指標	①経常収支比率(%) 評価基準 高い方がよい 計算式 $\frac{\text{経常収益}}{\text{経常費用}} \times 100$
①経常収支比率(%)	
評価基準	
高い方がよい	
計算式	
説明 毎年度の維持管理費や支払利息等の費用を、料金収入や繰入金等でどの程度賄えているかを示す指標です。100%以上であるときは、単年度の収支が黒字であることを意味します。	評価 100%以上で推移しており黒字ではあるものの、類似団体と比較するとやや低い傾向にあります。人口減少に伴う給水収益の減少や老朽管の更新に伴う減価償却費の増加等が見込まれるため、引き続き収支バランスを注視し、経営環境の変化に応じた対策が必要です。



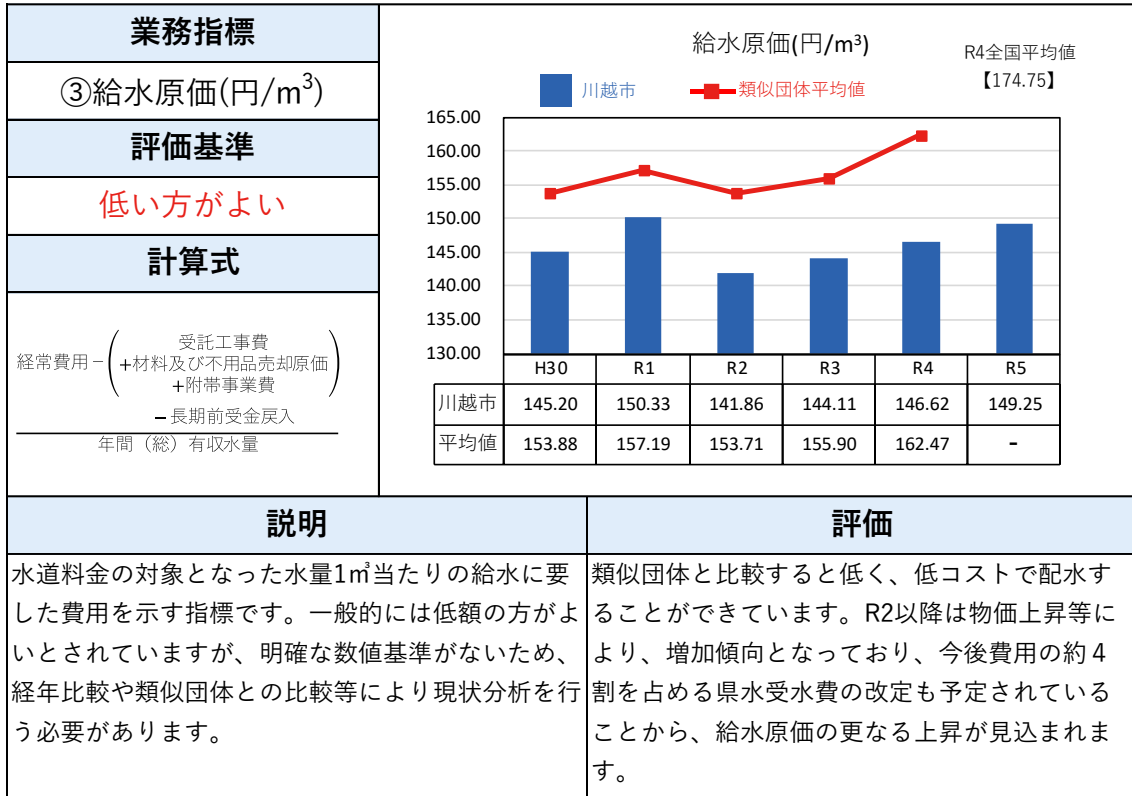
収益性 に関する指標

業務指標	②料金回収率(%) 評価基準 100%を超えること 計算式 $\frac{\text{供給単価}}{\text{給水原価}} \times 100$
②料金回収率(%)	
評価基準	
100%を超えること	
計算式	
説明 給水に要した経費を、料金収入でどの程度賄えているかを示した指標です。料金水準等を評価することが可能で、すべて料金収入で賄えている場合は100%以上となり、適正な水道料金が確保されることとなります。	評価 過去6年間100%を下回る状況が継続しており、料金収入で給水費用を賄えていない状況が続いています。今後想定している施設の維持や修繕等に要する費用を踏まえた適正な料金水準を確保する必要があります。

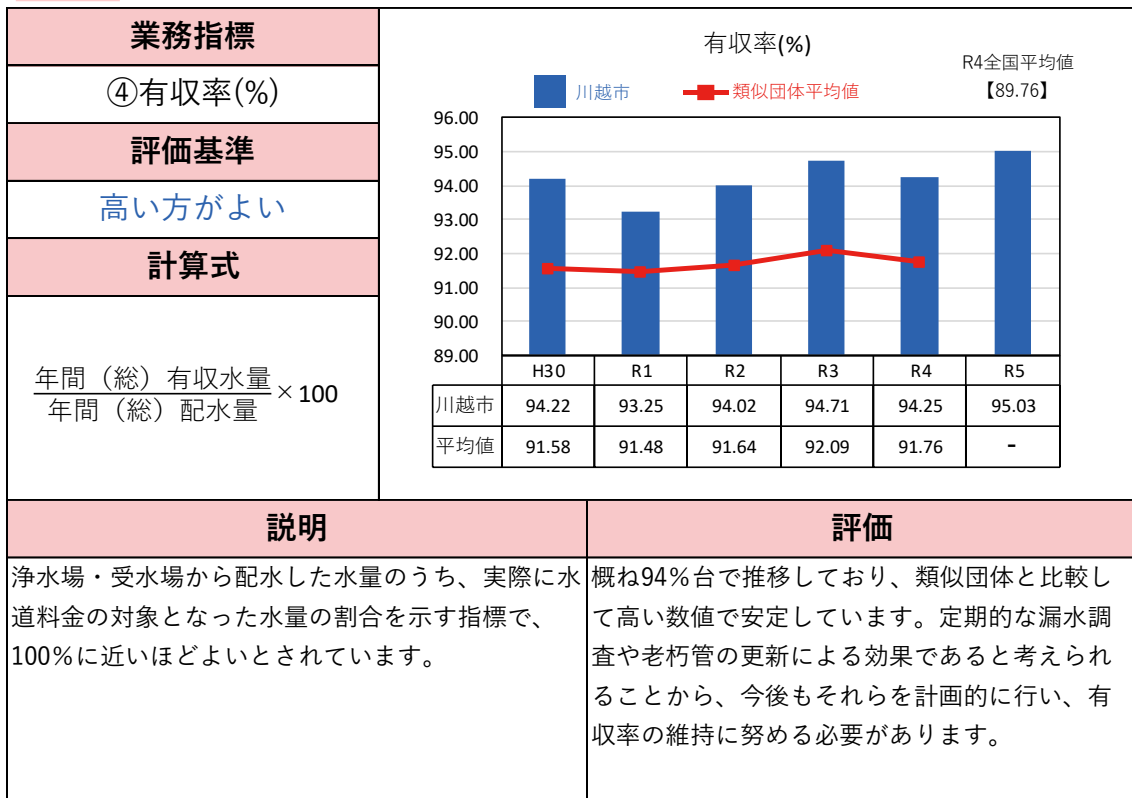


令和5年度取組状況報告書

収益性 に関する指標

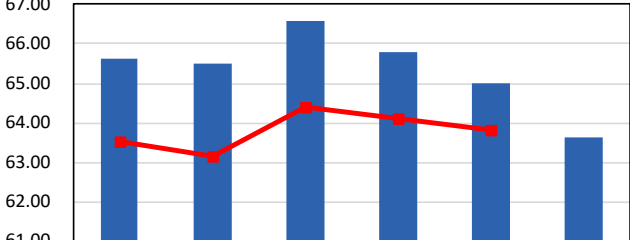


効率性 に関する指標



令和5年度取組状況報告書

効率性 に関する指標

業務指標		施設利用率(%)																						
⑤施設利用率(%)		R4全国平均値【59.97】																						
評価基準																								
高い方がよい																								
計算式																								
$\frac{\text{一日平均配水量}}{\text{一日配水能力}} \times 100$																								
																								
		<table><tr><td></td><td>H30</td><td>R1</td><td>R2</td><td>R3</td><td>R4</td><td>R5</td></tr><tr><td>川越市</td><td>65.64</td><td>65.50</td><td>66.60</td><td>65.78</td><td>64.98</td><td>63.64</td></tr><tr><td>平均値</td><td>63.53</td><td>63.16</td><td>64.41</td><td>64.11</td><td>63.81</td><td>-</td></tr></table>			H30	R1	R2	R3	R4	R5	川越市	65.64	65.50	66.60	65.78	64.98	63.64	平均値	63.53	63.16	64.41	64.11	63.81	-
	H30	R1	R2	R3	R4	R5																		
川越市	65.64	65.50	66.60	65.78	64.98	63.64																		
平均値	63.53	63.16	64.41	64.11	63.81	-																		
説明		評価																						
水道施設の効率性を示し、施設の利用状況や適正規模を判断するための指標です。明確な数値基準はありませんが、高い数値の方がよいとされています。数値が高すぎる場合は施設の余裕が少なく、低すぎる場合は無駄のある状態です。		R2はコロナ禍により、平均配水量が増加しましたが、その後減少傾向にあります。類似団体と比較してやや高い数値ですが、今後は人口減少や社会情勢の動向を注視しつつ、適正な施設規模のあり方について検討が必要です。																						

健全性 に関する指標

業務指標	流動比率(%) R4全国平均値 【252.29】 川越市 類似団体平均値 <table><tr><td></td><td>H30</td><td>R1</td><td>R2</td><td>R3</td><td>R4</td><td>R5</td></tr><tr><td>川越市</td><td>385.29</td><td>397.98</td><td>346.14</td><td>379.46</td><td>354.68</td><td>315.47</td></tr><tr><td>平均値</td><td>258.22</td><td>250.03</td><td>239.45</td><td>246.01</td><td>228.89</td><td>-</td></tr></table>		H30	R1	R2	R3	R4	R5	川越市	385.29	397.98	346.14	379.46	354.68	315.47	平均値	258.22	250.03	239.45	246.01	228.89	-
		H30	R1	R2	R3	R4	R5															
川越市		385.29	397.98	346.14	379.46	354.68	315.47															
平均値		258.22	250.03	239.45	246.01	228.89	-															
⑥流動比率(%)																						
評価基準																						
高い方がよい																						
計算式																						
流動資産 流動負債 × 100																						
説明	評価																					
1年以内に支払うべき債務に対して、支払い可能な現金等をどの程度有しているかを示す指標で、短期の支払い能力を表しています。200%を超えていることが望ましく、100%未満では不良債権が発生している可能性があります。	類似団体より高い水準を維持しており、短期的な支払い能力を確保できています。																					

令和5年度取組状況報告書

健全性 に関する指標

業務指標		企業債残高対給水収益比率(%)																						
⑦企業債残高対給水収益比率(%)		R4全国平均値 【268.07】																						
評価基準																								
低い方がよい																								
計算式																								
$\frac{\text{企業債現在高合計}}{\text{給水収益}} \times 100$																								
		<table><tr><td></td><td>H30</td><td>R1</td><td>R2</td><td>R3</td><td>R4</td><td>R5</td></tr><tr><td>川越市</td><td>133.02</td><td>134.71</td><td>139.37</td><td>136.17</td><td>139.62</td><td>135.71</td></tr><tr><td>平均値</td><td>255.12</td><td>254.19</td><td>259.56</td><td>248.92</td><td>251.26</td><td>-</td></tr></table>			H30	R1	R2	R3	R4	R5	川越市	133.02	134.71	139.37	136.17	139.62	135.71	平均値	255.12	254.19	259.56	248.92	251.26	-
	H30	R1	R2	R3	R4	R5																		
川越市	133.02	134.71	139.37	136.17	139.62	135.71																		
平均値	255.12	254.19	259.56	248.92	251.26	-																		
説明		評価																						
企業債の残高と料金収入等の収益との比率を示す指標です。明確な数値基準はありませんが、比率は低い方がよいとされています。ただし、世代間負担の公平性という観点からは、企業債を一定程度活用することも望まれます。		130%台で推移しており、類似団体と比較して低く抑えられています。今後も更新事業の財源として企業債が必要となるため、世代間負担を考慮した適正な水準について検討が必要です。																						

健全性 に関する指標

業務指標																						
累積欠損金比率(%)																						
評価基準																						
低い方がよい																						
計算式																						
$\frac{\text{当年度未処理欠損金}}{\text{営業収益}-\text{受託工事収益}} \times 100$																						
累積欠損金比率(%) R4全国平均値【1.34】 川越市 類似団体平均値 <table><thead><tr><th></th><th>H30</th><th>R1</th><th>R2</th><th>R3</th><th>R4</th><th>R5</th></tr></thead><tbody><tr><td>川越市</td><td>0.00</td><td>0.00</td><td>0.00</td><td>0.00</td><td>0.00</td><td>0.00</td></tr><tr><td>平均値</td><td>0.00</td><td>0.00</td><td>0.00</td><td>0.00</td><td>0.00</td><td>-</td></tr></tbody></table>			H30	R1	R2	R3	R4	R5	川越市	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	平均値	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	-
	H30	R1	R2	R3	R4	R5																
川越市	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00																
平均値	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	-																
説明	評価																					
累積欠損金とは、営業活動の結果発生した損失が、当該年度で処理できずに複数年度にわたって累積したものを示しています。健全な経営を維持していく上では、累積欠損金が発生していないことを示す0%であることが求められます。	本市では、累積欠損金は発生していません。																					

令和5年度取組状況報告書

施設 の老朽化状況

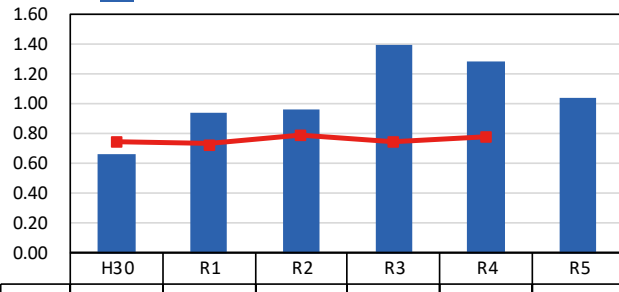
業務指標																						
⑧有形固定資産減価償却率(%)																						
評価基準																						
低い方がよい																						
計算式																						
$\frac{\text{有形固定資産減価償却累計額}}{\text{有形固定資産のうち償却対象資産の帳簿原価}} \times 100$																						
有形固定資産減価償却率(%) R4全国平均値【51.51】 川越市 類似団体平均値 <table><thead><tr><th></th><th>H30</th><th>R1</th><th>R2</th><th>R3</th><th>R4</th><th>R5</th></tr></thead><tbody><tr><td>川越市</td><td>50.09</td><td>51.08</td><td>51.92</td><td>52.69</td><td>53.02</td><td>53.64</td></tr><tr><td>平均値</td><td>50.41</td><td>51.13</td><td>51.62</td><td>52.16</td><td>52.59</td><td>-</td></tr></tbody></table>			H30	R1	R2	R3	R4	R5	川越市	50.09	51.08	51.92	52.69	53.02	53.64	平均値	50.41	51.13	51.62	52.16	52.59	-
	H30	R1	R2	R3	R4	R5																
川越市	50.09	51.08	51.92	52.69	53.02	53.64																
平均値	50.41	51.13	51.62	52.16	52.59	-																
説明	評価																					
有形固定資産のうち償却対象資産の減価償却がどの程度進んでいるかを示す指標で、資産の老朽化度合いを表しています。この比率が高いほど減価償却が進んでおり、施設の老朽化が進んでいるということを示しています。	類似団体と同水準ですが、上昇傾向にあり、施設の老朽化が進行しています。計画的、効率的に償却対象資産の更新を行う必要があります。																					

施設 の老朽化状況

業務指標	管路経年化率(%) R4全国平均値【23.75】 ■ 川越市 ■ 類似団体平均値 <table><thead><tr><th></th><th>H30</th><th>R1</th><th>R2</th><th>R3</th><th>R4</th><th>R5</th></tr></thead><tbody><tr><td>川越市</td><td>23.39</td><td>24.71</td><td>25.86</td><td>27.52</td><td>29.16</td><td>30.08</td></tr><tr><td>平均値</td><td>20.36</td><td>22.41</td><td>23.68</td><td>25.76</td><td>27.51</td><td>-</td></tr></tbody></table>		H30	R1	R2	R3	R4	R5	川越市	23.39	24.71	25.86	27.52	29.16	30.08	平均値	20.36	22.41	23.68	25.76	27.51	-
		H30	R1	R2	R3	R4	R5															
川越市		23.39	24.71	25.86	27.52	29.16	30.08															
平均値		20.36	22.41	23.68	25.76	27.51	-															
⑨管路経年化率(%)																						
評価基準																						
低い方がよい																						
計算式																						
法定耐用年数を 経過した管路延長 管路延長 × 100																						
説明	評価																					
法定耐用年数を超えた管路延長の割合を示す指標で、管路の老朽化度合いを表しています。	類似団体より2%程度高い水準にあります。今後も老朽化の進行が見込まれるため、計画的に更新工事を実施する必要があります。																					

令和5年度取組状況報告書

施設の老朽化状況

	管路更新率(%) R4全国平均値 【0.67】 川越市 類似団体平均値 																						
⑩管路更新率(%)																							
評価基準																							
高い方がよい																							
計算式																							
当該年度に更新した 管路延長 ×100 管路延長																							
	<table><tr><td></td><td>H30</td><td>R1</td><td>R2</td><td>R3</td><td>R4</td><td>R5</td></tr><tr><td>川越市</td><td>0.66</td><td>0.94</td><td>0.96</td><td>1.40</td><td>1.29</td><td>1.04</td></tr><tr><td>平均値</td><td>0.75</td><td>0.73</td><td>0.79</td><td>0.75</td><td>0.78</td><td>-</td></tr></table>			H30	R1	R2	R3	R4	R5	川越市	0.66	0.94	0.96	1.40	1.29	1.04	平均値	0.75	0.73	0.79	0.75	0.78	-
	H30	R1	R2	R3	R4	R5																	
川越市	0.66	0.94	0.96	1.40	1.29	1.04																	
平均値	0.75	0.73	0.79	0.75	0.78	-																	
説明	評価																						
その年度に更新した管路延長の割合を示した指標で、更新の取組状況を表しています。法定耐用年数の40年で全ての管路を更新するためには、毎年2.5%ずつ更新する計算となります。	類似団体より高い水準で管路更新を実施していますが、今後も老朽化の進行が見込まれるため、市の基準に基づき計画的な更新を継続していく必要があります。																						

4. 経営比較分析表を活用した現状分析

下水道事業

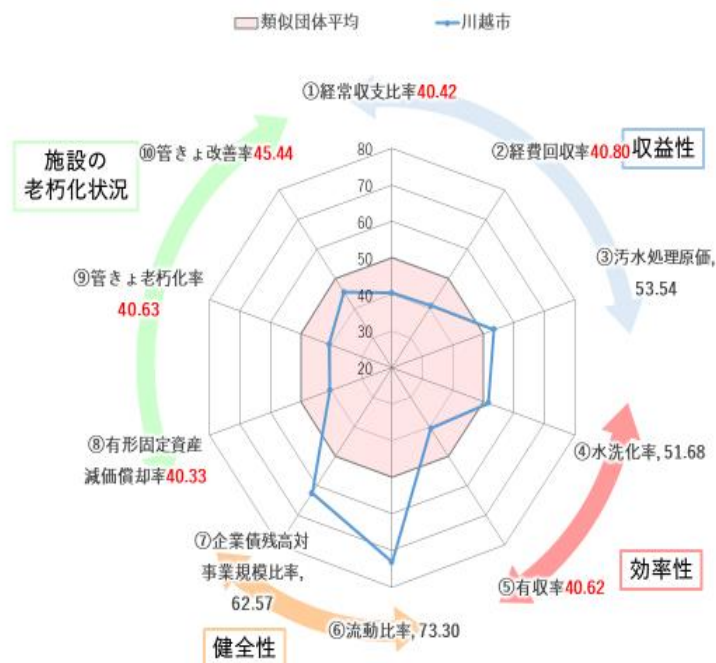
経営比較分析表とは、総務省が示した統一様式により、公営企業における経営や施設の状況を表す指標について、経年変化や類似団体平均との比較分析を行うことで、現状や課題等を把握することができる資料です。

本取組状況報告書では、経営比較分析表から令和４年度の各指標値を抽出し、類似団体の平均（ピンク色）を偏差値 50 とし、外側に向かうほど各指標が平均よりもよいことを表すレーダーチャートを下図のとおり作成しました。

また、次ページ以降に掲載している経営比較分析表では、令和４年度以前の５年間ににおける各指標値と類似団体平均値を比較し、本市の令和５年度の指標値を示しています（令和５年度の類似団体平均値については、令和６年１０月時点で総務省から公表されていません）。

なお、類似団体とは、処理区域内人口規模、人口密度等により区分されたもので、川越市は「処理区域内人口１０万人以上、処理区域内人口密度７５人／ha 以上」の区分に属しています（令和４年度は全国に３０団体あります）。

経営比較分析表レーダーチャート（令和４年度 下水道事業）

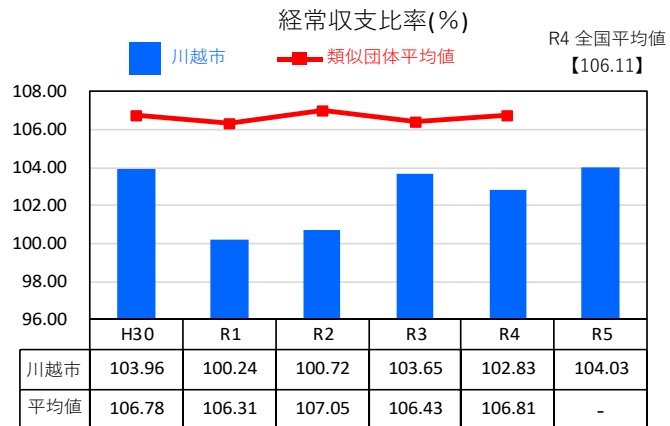


* 有収率は経営比較分析表の指標ではありませんが、本経営戦略では分析の項目に追加しています。

令和5年度取組状況報告書

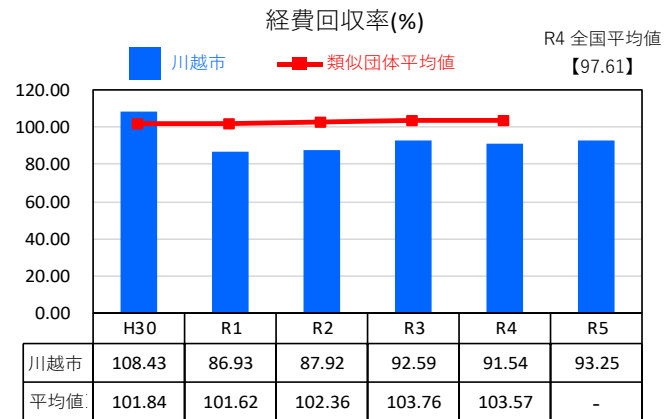
収益性 に関する指標

業務指標	①経常収支比率(%) 評価基準 高い方がよい 計算式 $\frac{\text{経常収益}}{\text{経常費用}} \times 100$
①経常収支比率(%)	
評価基準	
高い方がよい	
計算式	
説明 毎年度の維持管理費や支払利息等の費用を、使用料収入や繰入金等でどの程度賄えているかを示す指標です。100%以上であるときは、単年度の収支が黒字であることを意味します。	評価 本市は100%以上で黒字ではあるものの、類似団体と比較するとやや低い傾向にあります。使用料収入の減少が将来的に予想されることから、指標値が健全な数値となっているか、注視していく必要があります。



収益性 に関する指標

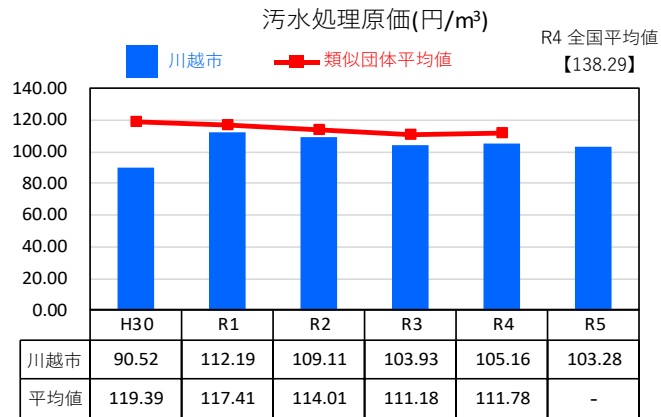
業務指標	②経費回収率(%) 評価基準 100%を超えること 計算式 $\frac{\text{下水道使用料}}{\text{污水处理費 (公費負担分を除く)}} \times 100$
②経費回収率(%)	
評価基準	
100%を超えること	
計算式	
説明 污水处理に要した経費を、使用料収入でどの程度賄えているかを示した指標です。使用料水準等を評価することが可能で、すべて使用料収入で賄えている場合は100%以上となり、適正な使用料が確保されていることとなります。	評価 本市は近年、100%を下回っており、污水处理に要する経費を使用料収入で賄うことができていません。類似団体平均値も下回っている状況であることから、適正な使用料水準を確保する必要があります。



令和5年度取組状況報告書

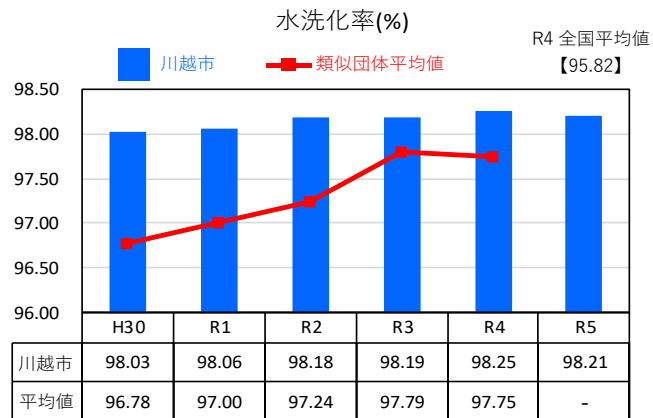
収益性 に関する指標

業務指標	③汚水処理原価(円/m³) 評価基準 低い方がよい 計算式 $\frac{\text{汚水処理費 (公費負担分を除く)}}{\text{年間有収水量}}$
説明	下水道使用料の対象となった水量1m³当たりの汚水処理に要した費用を示す指標です。一般的には低額の方がよいとされていますが、明確な数値基準がないため、経年比較や類似団体との比較等により現状分析を行う必要があります。
評価	H30までは、類似団体と比較して低い傾向にありましたが、近年は類似団体平均値と近い値を取っています。今後、流域下水道の処理単価が見直されると指標値に影響します。費用削減のため、不明水対策等をさらに進める必要があります。



収益性 に関する指標

業務指標	④水洗化率(%) 評価基準 高い方がよい 計算式 $\frac{\text{現在水洗便所設置済人口}}{\text{現在処理区域内人口}} \times 100$
説明	処理区域内人口のうち、実際に水洗便所を設置して汚水処理をしている人口の割合を示す指標です。100%となることが理想です。
評価	類似団体を上回っており、良好な数値となっています。引き続き普及を促進する必要があります。

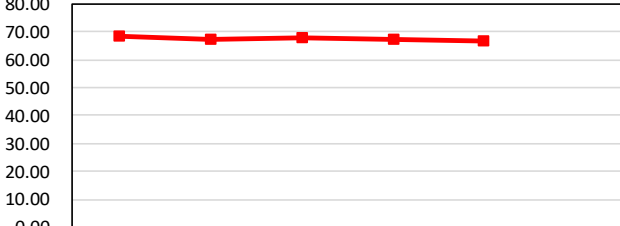


令和5年度取組状況報告書

効率性 に関する指標

業務指標		有収率(%) R4 全国平均値【85.4】 川越市 類似団体平均値 <table><tr><td>H30</td><td>R1</td><td>R2</td><td>R3</td><td>R4</td><td>R5</td></tr><tr><td>川越市</td><td>73.5</td><td>65.7</td><td>68.6</td><td>74.0</td><td>75.3</td><td>79.1</td></tr><tr><td>平均値</td><td>82.3</td><td>80.0</td><td>79.9</td><td>80.4</td><td>82.3</td><td>-</td></tr></table>		H30	R1	R2	R3	R4	R5	川越市	73.5	65.7	68.6	74.0	75.3	79.1	平均値	82.3	80.0	79.9	80.4	82.3	-
H30	R1			R2	R3	R4	R5																
川越市	73.5			65.7	68.6	74.0	75.3	79.1															
平均値	82.3			80.0	79.9	80.4	82.3	-															
⑤有収率(%)																							
評価基準																							
高い方がよい																							
計算式																							
年間有収水量 年間処理水量 × 100																							
説明		評価																					
各家庭・事業所等から出た汚水量のうち、実際に下水道使用料の対象となった水量の割合を示す指標で、100%に近いほどよいとされています。		本市では70%前後と、類似団体と比較して低い水準で推移しています。有収率向上のためには、不明水対策が効果的であることから、対策の強化を図る必要があります。																					

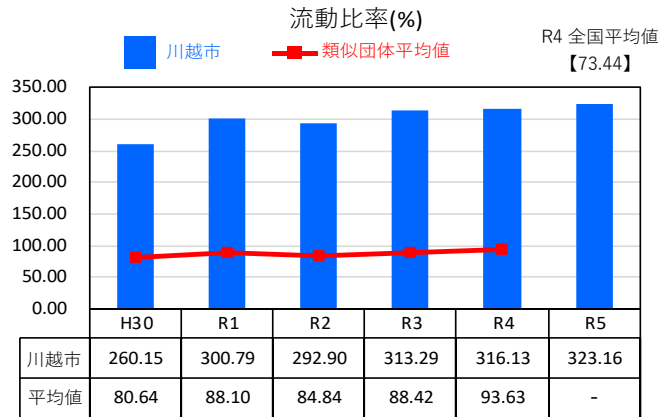
効率性 に関する指標

業務指標		施設利用率(%)																										
施設利用率(%)		R4 全国平均値 【59.10】																										
評価基準		川越市 類似団体平均値																										
高い方がよい																												
計算式																												
$\frac{\text{晴天時一日平均処理水量}}{\text{晴天時現在処理能力}} \times 100$																												
																												
		<table><tr><th></th><th>H30</th><th>R1</th><th>R2</th><th>R3</th><th>R4</th><th>R5</th></tr><tr><td>川越市</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td></tr><tr><td>平均値</td><td>68.30</td><td>67.37</td><td>67.71</td><td>67.13</td><td>66.82</td><td>-</td></tr></table>							H30	R1	R2	R3	R4	R5	川越市	-	-	-	-	-	-	平均値	68.30	67.37	67.71	67.13	66.82	-
	H30	R1	R2	R3	R4	R5																						
川越市	-	-	-	-	-	-																						
平均値	68.30	67.37	67.71	67.13	66.82	-																						
説明		評価																										
下水道施設の効率性を示し、施設の利用状況や適正規模を判断するための指標です。明確な数値基準はありませんが、高い数値の方がよいとされています。数値が高すぎる場合は施設の余裕が少なく、低すぎる場合は無駄のある状態です。		本市は処理場を有していないため、該当しません。																										

令和5年度取組状況報告書

健全性 に関する指標

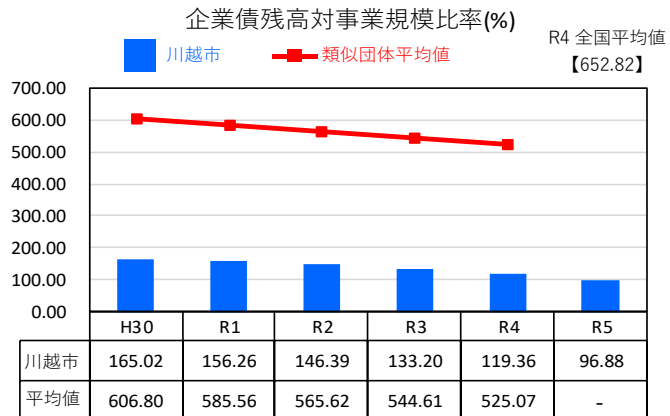
業務指標																						
⑥流動比率(%)																						
評価基準																						
高い方がよい																						
計算式																						
$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}} \times 100$																						
流動比率(%) R4 全国平均値 【73.44】 川越市 類似団体平均値 <table><thead><tr><th></th><th>H30</th><th>R1</th><th>R2</th><th>R3</th><th>R4</th><th>R5</th></tr></thead><tbody><tr><td>川越市</td><td>260.15</td><td>300.79</td><td>292.90</td><td>313.29</td><td>316.13</td><td>323.16</td></tr><tr><td>平均値</td><td>80.64</td><td>88.10</td><td>84.84</td><td>88.42</td><td>93.63</td><td>-</td></tr></tbody></table>			H30	R1	R2	R3	R4	R5	川越市	260.15	300.79	292.90	313.29	316.13	323.16	平均値	80.64	88.10	84.84	88.42	93.63	-
	H30	R1	R2	R3	R4	R5																
川越市	260.15	300.79	292.90	313.29	316.13	323.16																
平均値	80.64	88.10	84.84	88.42	93.63	-																
説明	評価																					
1年以内に支払うべき債務に対して、支払い可能な現金等をどの程度有しているかを示す指標で、短期の支払い能力を表しています。200%を超えていることが望ましく、100%未満では不良債権が発生している可能性があります。	200%を大きく上回っており、類似団体平均値も大きく上回っています。よって、短期的な支払い能力に問題はありません。																					



健全性 に関する指標

業務指標	
⑦企業債残高対事業規模比率(%)	
評価基準	
低い方がよい	
計算式	
$\frac{\text{企業債現在高合計} - \text{一般会計負担額}}{\text{営業収益} - \text{受託工事収益} - \text{雨水処理負担金}} \times 100$	
説明	
企業債の残高と使用料収入等の収益との比率を示す指標です。明確な数値基準はありませんが、比率は低い方がよいとされています。ただし、世代間負担の公平性という観点からは、企業債を一定程度活用することも望まれます。	
評価	
R 2 経営戦略で設定した200%以内という目標をすべての年において達成しています。今後、必要な更新事業等を実施するための財源として、適切な企業債残高の水準について、世代間負担を踏まえた検証を行う必要があります。	

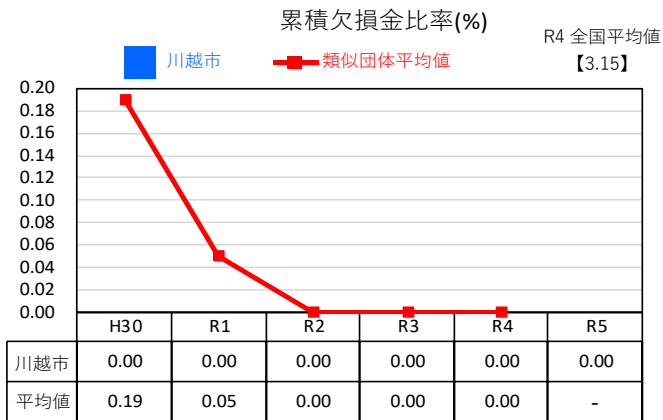
企業債残高対事業規模比率(%)							
	川越市	類似団体平均値					
		R4 全国平均値 【652.82】					
		H30	R1	R2	R3	R4	R5
川越市		165.02	156.26	146.39	133.20	119.36	96.88
平均値		606.80	585.56	565.62	544.61	525.07	-



令和5年度取組状況報告書

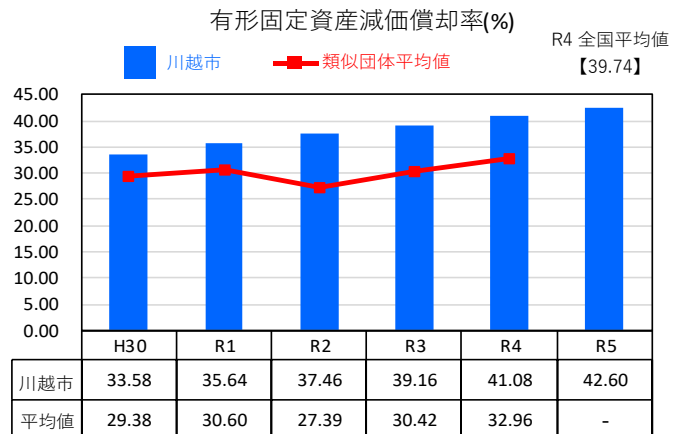
健全性 に関する指標

業務指標	累積欠損金比率(%) 評価基準 低い方がよい 計算式 $\frac{\text{当年度未処理欠損金}}{\text{営業収益}-\text{受託工事収益}} \times 100$
累積欠損金比率(%)	
評価基準	
低い方がよい	
計算式	
説明 累積欠損金とは、営業活動の結果発生した損失が、当該年度で処理できずに複数年度にわたって累積したものを示しています。健全な経営を維持していく上では、累積欠損金が発生していないことを示す0%であることが求められます。	評価 本市では、累積欠損金は発生していません。



施設 の老朽化状況

業務指標	⑧有形固定資産減価償却率(%) 評価基準 低い方がよい 計算式 $\frac{\text{有形固定資産減価償却累計額}}{\text{有形固定資産のうち償却対象資産の帳簿原価}} \times 100$
有形固定資産減価償却率(%)	
評価基準	
低い方がよい	
計算式	
説明 有形固定資産のうち償却対象資産の減価償却がどの程度進んでいるかを示す指標で、資産の老朽化度合いを表しています。この比率が高いほど減価償却が進んでおり、施設の老朽化が進んでいるということを示しています。	評価 類似団体を上回っており、かつ、数値は上昇傾向です。施設全体の老朽化が進みつつあることから、計画的、効果的な償却対象資産の更新や更生が必要です。



令和5年度取組状況報告書

施設 の老朽化状況

業務指標	
⑨管きょ老朽化率(%)	
評価基準	
低い方がよい	
計算式	
$\frac{\text{法定耐用年数を経過した管きょ延長}}{\text{下水道布設延長}} \times 100$	
説明	
法定耐用年数を超えた管きょ延長の割合を示す指標で、管きょの老朽化度合いを表しています。	
評価	
類似団体と比較して高く、年々上昇傾向にあります。今後も老朽化率が高くなっていくことが見込まれるため、計画的に更新を進めていく必要があります。	

管きょ老朽化率(%)

R4 全国平均値【7.62】

川越市

類似団体平均値

	H30	R1	R2	R3	R4	R5
川越市	6.77	8.67	10.21	10.28	13.31	14.77
平均値	3.45	5.02	5.86	6.66	8.49	-

施設 の老朽化状況

業務指標	
⑩管きょ改善率(%)	
評価基準	
高い方がよい	
計算式	
$\frac{\text{改善（更新・改良・維持）管きょ延長}}{\text{下水道布設延長}} \times 100$	
説明	
その年度に更新・改良・維持した管きょ延長の割合を示した指標で、改善の取組状況を表しています。標準耐用年数の50年で全ての管きょを改善するためには、毎年2%ずつ改善する計算となります。	
評価	
近年は類似団体より低い水準で推移しています。今後も老朽化の進行が見込まれるため、計画的に管きょの機能保全を図っていく必要があります。	

管きょ改善率(%)

R4 全国平均値【0.23】

川越市

類似団体平均値

	H30	R1	R2	R3	R4	R5
川越市	0.32	0.18	0.43	0.07	0.04	0.11
平均値	0.12	0.19	0.19	0.14	0.15	-

川越市上下水道事業経営戦略
(令和5年度 取組状況報告書)

令和6年11月発行

川越市上下水道局 総務企画課

〒350-0054 川越市三久保町20番地10

TEL:049-223-3063